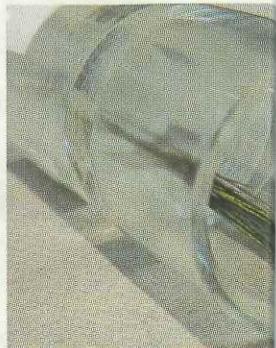


新社長



富士興産の原料リサイクル事業継承し発足

TOTOKUが半導体関連市場に供給する検査針



ニーズ拡大にも期待。また多機能化が進むハンドルでもヒータ線の搭載増が見込まれるため、その対応にも力を

ングスは先月30日、秋田県大館市のリサイクル事業拠点を増強したと発表した。子会社であるDOWAエコシス

第3工場は、最新のテム子会社で、家電リサイクルなどを行うエコリサイクルが第3工場を建設し、処理能力

を現状の2500トン／

ヶ月に増強した。投資額は約10億円。試運転を経て、10月ごろの操業開始を予定する。

3工場には堅型破碎機、磁力選別機、風力選別機、渦電流選別機などの設備を設置した。

エコリサイクルは、2000年に操業を開始し、家電4品目（テレビ・冷蔵庫・洗濯機

・エアコン）の再商品化事業や携帯電話・ゲーム機などの小型家電、OA機器などのリサイクル事業を展開している。近年はこれら

の事業に加え、プラスチックのリサイクル

は、売上高・収益ともに前期並みを見込んでいます。

西尾 一氏（にしお はじめ）大学卒業後、呉服店の営業

を経て、2006年

ことで、前年保できる見

4品目の入

ことでも検討しており、組みにつなげる。第3工場に冷蔵庫のリサイ

クルを集約すること

で、既存工場のリサイ

クル効率向上にもつな

く、資源循環の強化とともに脱炭素に向けた取り組みにつなげる。

3工場には堅型破碎機、磁力選別機、風力選別機、渦電流選別機などの設備を設置した。

エコリサイクルは、2000年に操業を開始し、家電4品目（テ

・冷蔵庫・洗濯機

や、同社グ

坂製錬（秋田

の一般廃棄物の前処理）

も手掛けており、

3工場には堅型破碎機、磁力選別機、風力選別機、渦電流選別機などの設備を設置した。

エコリサイクルは、2000年に操業を開始し、家電4品目（テ

・冷蔵庫・洗濯機

・エアコン）の再商品化事業や携帯電話・ゲ

富士マテリアル 西尾 一氏

スピード感ある経営を

レアメタル・レアースの専業商社、富士マテリアル（本社・大阪市、資本金・5千万円）は、富士興産（本社・大阪市、社長・赤嶺和俊氏）のい。変化の激しい業界

原料リサイクル事業を

だけに取引先との協業

を含め、スピード感の

ある経営に努めたい」

富士マテリアルの初代

と抱負。

同社の業務はニッケ

ル、コバルト、チタン、

タンクステンを中心と

マテリアルの今期業績

は、富士マテリアルは持

業ゼロ、

有給取得

率も10

0 %。

「健康経営優良法人」認定などを取得、社内の風通しは非常に良い

「同業他社と協業を続ける拡大を目指し歩んでいく」

UACJアルミニウム

ターラー（U1、社長・高橋明氏）は今期のアルミニウムは今期のアルミニウム販売量が前年並みの3万2千トンになると見込んでいる。海外材の増加に加えて国内需要も主力の建材需要が伸び悩んでいる。しかし、ながら半導体関連向

引き継ぎ、10月1日付で設立された新会社。富士マテリアルの初代社長には、西尾一富士興産専務が就いた。

4年6月期業績は売上高80億円、経常利益3億7300万円。富士興産専務が就いた。

「同社の業務はニッケル、コバルト、チタン、億7300万円。富士興産専務が就いた。

業界の発展が、当社の発展にもつながっている。新生

こと信じている。新生

（白木 翁俊）

今期薄板販売、

